

新たに入会された皆さん
賛助会員

石渡 裕子
西野 順三
高瀬 梓
緋本 順子
久世 直子
上村 敏弘

新たに入会された皆さん
正会員

塩谷 惣太郎

寄付をいただいた皆さん

中山 光子
小宮 弘信
中山 修
大西 和弘
匿名希望 1名

(順不同、敬称略 期間：2014年9月21～12月10日まで)

宝塚市立勤労市民センターにて、展開中の事業にも寄付いただいています

100色 珈琲 つばめ 文庫



計 126,652円

2014年6月4日～11月30日

ご支援ありがとうございました。

(認定) 宝塚 NPO センター会員募集・継続のお願い

宝塚 NPO センターは、「市民が市民を支える社会」を作るために、市民活動の支援をしています。人がつながり仲間になる、仲間がつながり地域になる、地域がつながり社会になる、その全ての場面を支えるセンターでありたいと考えています。私たちの活動を、会員として一緒に支えて下さいますようお願いいたします。

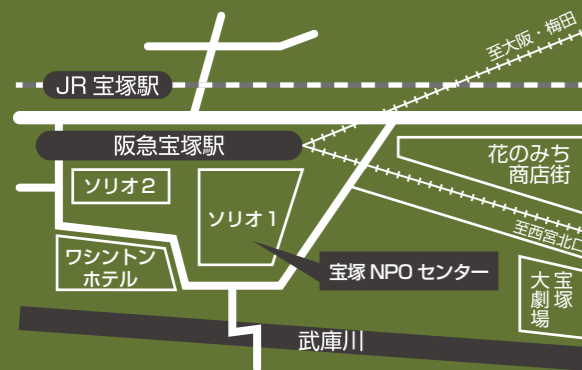
※認定 NPO 法人への寄付は税制面で優遇されます。

会費

個人正会員	団体正会員 (NPO 法人他)	法人正会員	賛助会員
10,000 円		30,000 円	3,000 円

振込先

	銀行振込	郵便振替
銀行名	三菱東京 UFJ	
支店	阪急宝塚出張所	
口座番号	普通預金 3629422	00930-8-77117
力ナ	トクティエイリ タカラツカエヌビーオーセンター	タカラツカエヌビーオーセンター
口座名義	(特) 宝塚 NPO センター	宝塚 NPO センター



(認定) 宝塚 NPO センター

〒665-0845
兵庫県 宝塚市 栄町 2-1-1
ソリオ1-3F
TEL: 0797-85-7766 FAX: 0797-85-7799
E-mail: zukanpo@hnpo.net
URL: http://hnpo.net/
駐車場: ソリオ1...30分 200円

発行人: 牧里 每治 編集人: 中山 光子

宝塚 NPO センターニュース

TAKARAZUKA
NPO CENTER
NEWS

市民の手で市民活動を支える

81 このニュースの編集、発送はボランティアの皆さんにご協力いただいています

排除のない地域社会をつくり
コミュニティ内の人を守るコト
から考えなくてはならない

みなさまの寄付で支えられています。

http://hnpo.net/support/

認定 NPO 法人に寄付をすると税金が戻ってきます

特定非営利活動法人 こむの事業所 代表理事 松藤 聖一

● **地域づくり事業**
● **中間就労の場づくり事業**

<宝塚市立勤労市民センター指定管理事業>
<カフェ事業>

地域づくり事業として今年度からスタートした宝塚市立勤労市民センターの指定管理。私たちが指定管理するからには貸室利用者だけでなく、すべての市民に、この施設の事を知っていただこうと様々な仕掛けを行っています。

100色 珈琲



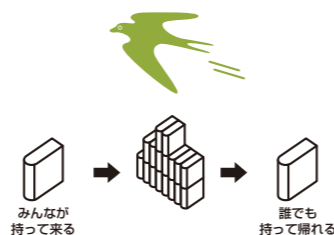
「珈琲を飲むだけの社会貢献」

1F ロビーに設置した「100 色珈琲」は、地域若者サポートステーション登録者やボランティアスタッフだけで運営し、半年間で約 3600 人の方にご利用いただきました。就労前の若者やシニアが元気に過ごせる「場」づくりと勤労市民センターの利用者へのサービスが同時に解決できる事業です。

「本一冊から始まる社会貢献」

市民の誰もが利用できるマイクロライブラリー「つばめ文庫」を 1F ロビーに設置しました。読まなくなって家にずっと置いてる本を持ってくると、他の人がもってきた本を持って帰れるシステムです。スタートして半年、本がどんどん集まってきたので、棚を拡大する予定です。

つばめ 文庫



子ども向けイベントも実施しています



子どものための「ざぶとん体操」



2DAYS「子どもサマースクール」



防災体験「カエルさんを救い出せ!!」

職場体験実習がスタートしました

今年 11 月から、「宝塚市若者就労支援事業」の参加者や厚生労働省認定事業である「宝塚地域若者サポートステーション」の利用者の職場体験実習を勤労市民センターで開始し、若者が様々な人や仕事に接することができる場となっています。実際の職場で体験することは、働くことの「厳しさ」、「喜び」、「やりがい」を肌で感じることが出来る貴重な機会となっているものの職場体験を希望する若者の数に対して、受け入れていただける実習先が少ないという現実があります。勤労市民センターには毎日、多くの施設利用者が来所されており、仕事の内容も広範囲に亘っているため実習先として望ましい職場です。また、指導している職員にとっても、実習生が目の前でどんどん成長する姿を見ることは、とても嬉しいことです。加えて、実習生を受け入れることによって、私たちの業務の見直しや、整理にもつながっています。

これまでの実習先である中央図書館や地域の事業所にも引き続きご協力をいただきながら、さらに、職場体験の機会を増やしていきたいと考えております。このような仕事体験の必要性や意義を見出し、その取り組みが理解され、地域社会で、広がることを期待しています。今後とも、皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

あの人の
コラム

「行政の手の届かないところに切り札はある」

20 年前宝塚市職員として救助に向かった現場で、倒壊したアパートのがれきの下から 3 人の男の子を助け出していたのは近所の人たちでした。しかし、さらにその下の壁土に埋もれていたお母さんと小1 の娘さんの命を救うことはできませんでした。命の危機に行政の手が届かない限界を目の当たりにした一瞬でした。

命や暮らしの危機は、災害の時だけではなくありません。病気や介護、ときには暴力など普段の生活の中で見舞われることがあります。行政の手の届かないところに働く助け合いの力が人口減少・高齢社会の切り札になることを確信しています。ノーマライゼーションの父と言われるバンクミケルセンは、自由、平等、博愛という基本的な価値観に加えて、連帯が市民社会の大切な原理であると言い続けました。個人と個人の絆が社会的連帯に発展して、誰もが排除されない地域社会、福祉コミュニティができていくことを願っています。

特定非営利活動法人 こむの事業所 代表理事 松藤 聖一

取材に行ってきました！！

「宝塚発！みんなが働き、楽しく暮らす仕組み」

阪急中山観音駅と売布神社駅のほぼ中間に位置する宝塚福祉コミュニティプラザ。その一角に障がい者をはじめとして社会的に仕事を得にくい人々に働く場を提供する“ソーシャルファーム”こむの事業所があります。主に施設管理や食事提供、農作物販売、家電修理事業を行い、今年 12 月に A 型事業所として兵庫県初の仮認定を受けた NPO 法人。現地にて松藤聖一代表理事にお話を伺いました。



自立生活訓練、緊急時用として施設内にある居住スペース



お米や新鮮野菜などを販売する「こむの市場」



福祉施設への給食提供なども行っているレストラン「こむす」の調理場

「畑ではありません（笑）」

「ファームって畑のことじゃないですよ」とユーモアたっぷりにお話しされる松藤さん。事業内容に野菜販売が含まれるので誤解されることも多いのだそう。ファームとは”ちいさな事業所”を指す英語。ちなみに語源はラテン語で「確かな約束」や「しっかりした意思」という意味。

「よかれ、と思っていたこと。」

宝塚市職員だった松藤さんがソーシャルファームを始めたのは、障がいを抱えながらもお掃除の仕事をして母親と 2 人で暮らしていたある女性との出会いがきっかけでした。彼女に母親が亡くなるという転機が訪れた時、身寄りのない彼女を市も地域も心配し、不自由のないよう福祉施設への入所を進めました。しかし半年後その施設を訪れた時、彼女は地域で暮らしていた時より元気を失っていました。逆に自由を制限してしまったと松藤さんは語ります。「決して施設は悪くない。むしろよくやってくださっている。困難を抱えながらも仕事をし、地域で暮らせるような社会にしたい。」その時、想いが生まれたそうです。

「出来ないことを悔いるよりも、出来ることに着目するまちづくりを宝塚から。」

わからないこと、知らないことは誰でも避けがちです。私たちは、今出来ることを考え、それを少しずつ増やせばいいのかもしれない。誰かに少し優しくできるまちはきっと未来の私たちにとっても優しいまちなのではないでしょうか。